

長野県社保協ニュース<28-1>

2023年3月1日(水) 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

<http://www.n-syaho.com>

E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

長野県社保協第28回総会・講演会開催

大軍拡・大增税、社会保障削減の岸田政権に怒りの声を届け、社会保障制度を守る運動を共同ですすめよう！



長野県社保協は、2月18日28回総会及び公開講演会をオンラインで開催し約45名が視聴しました。開会挨拶で細尾俊彦さん(県労連議長)は、「今年ほど賃金要求が社会的な要求になっている春闘はない。国民の可処分所得が減少を続ける一方、岸田政権は大軍拡・大增税をろくな論議もないまますすめている。給食費の無償化で県教育長が支援の検討を始めると回答した。私たちが取り組む署名が県を動かしている。人権としての社会保障を守るためにも、県内で市民と野党との共闘を構築しながら社会保障運動を強化しましょう」と呼びかけました(写真左)。

総会では原事務局長が23年度の活動方針を提案、宮沢事務局次長が決算・予算案の提案・報告、磯野監事が決算監査報告を行いました。討論のあとすべての議案が承認され、新年度の方針と新役員体制を確認しました。

討論では9団体から発言がありました。発言の要旨を紹介します。

◆**長野地区**「長野市へ後期高齢医療負担の現状維持を請願。2割負担後も引き上げに対する声を上げ続ける。野党3党に介護現場の声を届け制度改善を要請。大改悪は夏までの活動が重要。飯綱町など3町村で介護改善の意見書が採択された。運動の大きな成果。長野市に補聴器購入助成で署名を届け、前向き回答を得た。キャラバンで長野市の準備基金が31億円にものぼることが分かった。基金を活用した保険料引き下げを要求していく」◆**松本地区**「31年ぶりに松本市の国保料の引き下げを実現。運動と議会活動の連携の成果。まだまだ高い保険料の引き下げを実現させたい。キャラバンで松本市が国保短期証の発行を取りやめる動きがあることがわかった。実現すれば運動の大きな成果だ。介護改善要請で塩尻市、山形村が意見書を採択。塩尻市とは新市長と懇談実現し中身のある懇談が出来ている」◆**諏訪地方**「総会で補聴器購入助成に向け講演会開催。これを機に運動が進み5市町村に署名提出。その結果下諏訪町が実施に向けて動き出した。子ども医療費も18歳まで拡大が広がっている。下諏訪町の国保税引き上げの動きに「よくする会」を立ち上げ議会に陳情。介護改善要請を6市町村と広域に行い4市町村が意見書を採択。HPの充実や、議会との連携を進める」◆**飯伊地区**「5市町村へキャラバン要請し67名が参加。飯田市と国保44条減免申請広報の改善と短期保険証の発行基準を制定するよう要請。市の介護給付事業などでも懇談。今後も住民の声を届けることが引き続き重要」◆**佐久地区**「キャラバンは11市町村に要望を届け、毎年全て文書による回答を得ている。この間南相木村長と懇談し小海町は障がい者のグループホームの建設を予定。南牧村の補聴器購入助成が拡充され、所得制限なく10万円の助成は運動の成果。今後各地で広がるよう運動をすすめる」◆**年金者組合**「2013年から年金削減システムが敷かれ、物価、賃金どちらか低いほうにシフトするように削減されてきた。今はマクロスライドによる削減。「100年安心」は財界だ。積み立ては234兆円もあり国家予算の倍にもなる。削減のスパイラルは裁判に勝つか政権交代で解消する以外ない。4月以降、医療、介護など5項目で全国署名に取り組む」◆**県生連**「県下各地で宣伝、相談活動、県への要求運動に取り組み、要求していた県営住宅の入居保証人の免除が実現した。市営住宅の入居にも広がる動きがある。生保、補聴器の購入助成などの要求運動も各地で取り組んだ。県知事選挙には会長が立候補したかった」◆**障協**「国連から障がい者権利条約にもとづく勧告が出された。この勧告について県民への理解を広げたい。障がい者の多くが戦争、紛争から生まれている。平和のなかで生きることが今年の運動の大きなテーマ。障がい者の現物給付制度が進んでおらず窓口無料化の実現に向け共同の運動をすすめたい」◆**保険医協会**「後期高齢者の負担増などで国会要請に取り組んできた。オンライン資格確認の義務化、保険証廃止によるマイナンバーカードとの一体化が国会審議をせず進もうとしている。国家が国民の健康を管理することは危険だ。反対署名運動を各団体とともに進めたい」

閉会の挨拶を行った小林吟子さん(県医労連)は、「講演を聴いて、若者世代に社会保障制度や運動をどう伝えるかが課題だと思う。賃金が下がるなか、若い世代が社会保障の運動に目を向けていくよう私たちの取り組みが必要になっている。社会保障にとって平和であり続けることが大切。今日の総会では良い議論ができたと思う」と述べました(写真右)。



「人権としての社会保障と社会保障運動」

講師：神戸大学准教授 井口克郎氏

講演要旨

<社会保障運動って？社会保障はなぜあるのか？>

社会保障運動は人々が連帯して社会保障水準の維持・向上を求め国や自治体に対し働きかけを行うこと。貧困などの問題を社会に発信し改善するための世論形成などを含んでいる。資本主義経済システムでは失業、病気、高齢になると生活や生存が困難となる。これに対し社会保障は、失業しても高齢になっても一人の人間として尊重される社会を実現するため、国が膨大な富を持つ企業や富裕層に課税し健康で文化的な生活を保障する垂直的な所得再配分機能。しかし今その機能が庶民増税や自己負担増などで歪められておりそれにどう対抗するかが課題。



<憲法・国際条約と私たちの人権としての社会保障>

資本主義は、必然的に貧困を発生させる経済システム。それを改善するために歴史的に発展してきたのが憲法と国際条約。憲法25条は社会保障の極めて重要な法的根拠。第2項で社会保障や福祉、公衆衛生の向上・増進に努める義務を規定しているが、これは社会保障の「後退禁止」規定。年金や生活保護裁判は国のこの規定違反とのたたかい。国際条約を各国は誠実に遵守する必要があるが日本は条約違反を繰り返している。憲法と国際条約の社会保障後退禁止原則をいかに守らせるかが問われている。

<なぜ社会保障運動が必要か？>

憲法や国際条約は人権や国家の義務を定めているが、資本家階級側の支持を受ける政党が政権を牛耳ると社会保障は後退する。自由、人権を維持するには憲法を守る「不断の努力」が不可欠。96年の小選挙区制の導入、新自由主義構造改革は制度を後退させ、「格差社会」へと誘導してきた。2012年の社会保障制度改革推進法は社会保障を「自助、互助、共助、公助」に置き換えた。特に「公助」は恩恵を指し社会保障とは相いれない。これにより生活保護費の抑制、大幅引き下げ、違法な「水際作戦」が強化されてきたが、抑制に対抗するアクションが全国で展開され、大阪や東京などで違憲訴訟に勝訴し潮目が変わった。希望の持てる展開になっている。

<作られた財政危機と社会保障>

高齢化が進んでも社会保障を維持・改善する経済力は日本にある。「財政危機」は長年の大企業・富裕層優遇の結果であり全産業の当期純利益で内部留保は500兆円を超え、大企業には余力が有り余る。トヨタなど好調な企業にきちんと課税するだけで、生保、年金などの引き下げは回避できる。大企業・富裕層への課税強化はもはや不可避だ。

<ウクライナ戦争に乗じた軍事国家の既成事実化>

岸田首相は軍事費を5年間で43兆円に増額を指示し社会保障費の抑制と増税を狙う。「法人税増税」は従来社会保障費確保のためには決して口にしなかった。米軍のためなら踏み切る。この国の主権者は誰なのか。本来社会保障や賃上げに使われるべき社会的富が戦争に使われる。こんな愚かなことはない。戦争の土壌として貧困がある。そうさせないための知恵が憲法9条と25条にある。

<おわりに>

自民党の「改憲草案」はこの憲法を改正し人権の制限を目論む。これを許せば戦前に逆戻りとなる。明治の民権家植木枝盛は「自由・人権は坂道を車で押して登るように皆で押し続ける不断の努力が必要」と言ったが、構造は今も同じ。より多くの人に共に人権や権利を押し上げる運動にかかわってもらうことが重要だと思います。

<2023年度役員> 1年間よろしくお願ひします

代表委員：宮沢裕夫（保険医協会）、清水信明（民医連）、小林吟子（医労連）、細尾俊彦（県労連）、松丸道男（障協）、

北沢忠（年金者組合） 事務局長：原 健（民医連）

事務局次長：小布施美佐（医労連）、原 淳（保険医協会）、竹田憲子（県推協）、出河進（民医連）

運営委員：唐沢 佑作（高教組）、八重田景子（県労連）、大久保益栄（県生連）、戸沢一雄（年金者組合）、相沢道人（県商連）、

藤本ようこ（長野）、塩原秀治（松本）、備前光正（諏訪）、増田文昭（佐久）、（飯伊）、佐藤 功

会計監査：磯野紀子（建交労）、太田千枝子（年金者組合） <注* 下線の方が新任の役員>

退任役員さんから一言 宮澤淳司さん：事務局を15年以上担当しました。私たちの要求に冷たい県政ですが、粘り強い運動で子ども医療費助成の現物給付化を実現させたことは大きな成果です。今後の奮闘に期待します。 川畑和章さん：お世話になりました。労組専従から現場に戻ることになりました。事務局次長としてたくさんの学びを得ることが出来ました。運営委員会では地域、団体の厳しい実態や活動に共感しながら交流させていただきました。長い間ありがとうございました。